

連載企画【第10回】

「お墓」のはなし

お墓をキレイにしませんか？

～「荒れ墓」「無縁墓」が増えています～

有限会社 福井石材
代表取締役 福井 基紘

「荒れ墓」「無縁墓」とは？

年末から年始にかけて墓地には多くの方が訪れ、お供えするお花も松、千両などが加わり、いつもより少し華やかになりました。その光景は皆様のご先祖様に対するお気持ちが伝わってくるようで、感慨深いものです。しかし、中には雑草が生い茂っていたり、墓石が傾いたり倒れているお墓があります。このように管理がされなくなって荒れてしまったお墓を「荒れ墓」。お墓に眠っている方の縁故者がいなくなってしまった、またはわからなくなってしまったお墓を「無縁墓」といいます。



年お参りしてきたお墓に対する思い出や、ご先祖様に申し訳ないと思ひ涙される方もいます。

当然お墓は永代守られていくことが良いのですが、各家庭のそれぞれの都合で「墓じまい」を余儀なくされることもあるかと思ひます。お墓を片付けてしまう無念さは非常にわかりますが、それ以上に「荒れ墓」「無縁墓」にしてしまうことは、ご先祖様に対して失礼なことだと思ひます。従来のお墓以外にも供養塔など、先祖供養の形はあります、決して墓じまいすることは悪いことではありません。

お墓の現状

熊本県人吉市が2013年に市内で行った調査によると、市有と私有の墓地にある市内計1万5128基のうち42.7%が「無縁墓」で、実数にすると6500基近くが、長年管理されていないものだったそうです。この結果がこの辺りの地域に当てはまると思ひませんし、極端な例だと思ひますが、実際に数字で示されると驚きます。

墓じまいは悪いことではありません

ここで私が思い出すのが近年の「墓じまい」の依頼の増加です。墓じまいの多くは「墓守をしていたご自身が高齢になり、墓地に行けなくなった、後を見てくれる人がいない、このままでは無縁墓になってしまう」という理由です。しかし、依頼される方は、長

ご家族にお墓の大切さを伝えてください

それより気がかりなのはお墓への関心がなくなることです。核家族化が進み、祖父母に会うのも年に1、2回だけでお墓参りには何年も行っていないという方もいます。こうなってしまうとお墓への想いは薄れ、やがて忘れられてしまいます。今後かわいそうな「荒れ墓」「無縁墓」を増やさないためにも、お子さんやお孫さんにお墓のありがたみや大切さを教えてあげてください。



きれいなお花が手向けられたお墓を見れば、気持ちも晴れて悩みも吹き飛ばされるかもしれません。気持ちも晴れやかに清々しく一新されることでしょう。ご先祖様はきっとあなたを守ってくださいます。